

VOLLEYBALL

日本文化出版MOOK

バレークロニクル

Volley chronicle



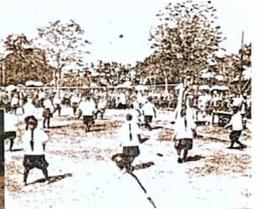
歴史を知ること
で、
バレーボールの世界はさらに広がる

バレーボール 年代記

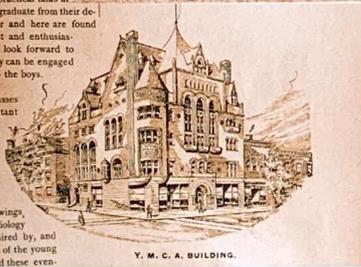
バレーボール誕生の
背景からその伝来、
日本でのさまざまな
発展について網羅



VOLLEYBALL
HALL OF FAME



Many improve the gymnasium
lectures and practical talks at
supper. Boys graduate from their de-
into the senior and here are found
be more efficient and enthusias-
tismen. We look forward to
when a secretary can be engaged
is whole time to the boys.
worth it.
directional classes
come an important
stable feature
work. Practi-
ties, such as
ic, reading,
ping, pen-
grammar,
d, mechanical
hitectural drawings,
German, physiology
studies as desired by, and
meet the needs of the young
have found these even-



Y. M. C. A. BUILDING.

WILLIAM
YMCA G. MORGAN

写真やコラムも豊富な歴史読み物として
バレーボールファンや指導者必携の一冊

日本バレーボール学会 編
日本バレーボール学会設立 20周年記念出版



第4章 9人制バレーボールの歴史

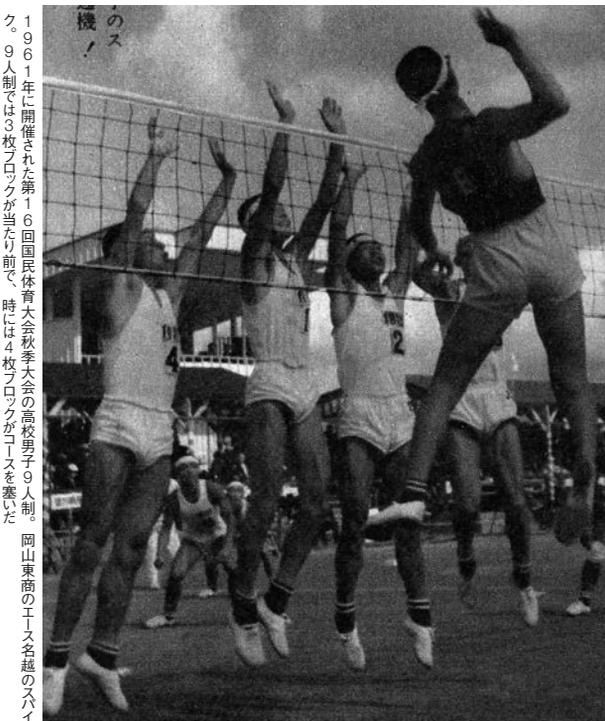
元パイオニア監督 大岩辰裕

<競技としての歴史>

日本のバレーボールには元々9人制バレーボールが主流として定着してきた歴史がある。大会の始まりは1927（昭和2）年「全日本排球選手権」として男子大会が開始。翌年には兵庫県に男女それぞれ6チームが集い、男子は神戸高商が二連覇、女子は愛知淑徳女が初代優勝に輝いている。その後、1947（昭和22）年に「実業団選手権」が開催されたことに伴い「全日本総合選手権」に改称。バレーボールのメインが6人制に移行するまで、文字通り日本の最高峰のバレーボール大会として、1950（昭和25）年には天皇杯・皇后杯が下賜される大会となっていた。歴代優勝チームには、現在Vリーグで活躍するチーム名が多数並び、「東洋の魔女」の母体となった「日紡貝塚」も歴代優勝チームに名を残している。このように、日本バレーボールの歴史は9人制から



1961年の全日本9人制バレーボール実業団女子選手権大会の決勝戦、倉敷対日紡における倉敷HL青野のスパイク。ダイオミックスには欠けるが、それをテックでカバーする好プレー



1961年に開催された第16回国民体育大会秋季大会の高校男子9人制。岡山東商のエース越のスパイク。9人制では3枚ブロックが当たり前で、時には4枚ブロックがコースを塞いだ

始まり、現在日本のバレーボール界最長の大会は「全日本9人制バレーボール総合選手権大会」となっている。また、同大会以外では、過去には「黒鷲旗都市対抗優勝大会1990（平成2）年～2001（平成13）年」や「国民体育大会」も実施されていた。特に1946年（昭和21）年から始まった「国民体育大会」の第1回大会は9人制のみが開催され、高校男女も9人制で競技が実施された。その後9人制は実施種別から除外、追加を繰り返し、現在は2010（平成22）年開催の千葉国体を最後に国体種別からは除外されている。

現在開催されている9人制の全国大会は、登録連盟に制限なく出場可能な「全日本総合選手権大会」、実業団登録の「全日本実業団選手権大会」「櫻田記念・全日本実業団選抜優勝大会」、クラブ登録の「クラブカップ選手権大会」、実業団とクラブ登録チームが出場可能な「全国社会人優勝大会」などがある。現在、実業団チームは母体企業の経営状況の影響、クラブチームはスポーツの多様化などから登録チーム数は減少傾向にあり、特に実業団女子はチーム数が激減しており、バレーボール人口の男女比で考えると、実業団の登録数は女子の方が少ないという逆転現象も起きている。このような背景から、実業団女子の監督達が立ち上がり、チーム、各連盟（実業団・クラブ）、そして日本バレーボール協会が三位一体となり、2015（平成27）年から男女8チームが参加する全日本9人制バレーボールトップリーグ戦「V9チャンプリーグ」を開始した。

<技術・ルールの歴史>

6人制と比べ9人制の特徴的なルールを以下にあげる。

- ・ポジションのローテーションがない。
- ・ネットの高さが違う（一般男子2.38m、一般女子2.15m）
- ・アンテナの位置が違う
- ・男子はコートの広さが違う（10.5m）
- ・サービスは一度失敗しても、もう一度だけ打てる。
- ・ブロックにおいては、ネットを越えて、相手方コート内にあるボールに触れた時はオーバーネットの反則となる。
- ・ブロックが1回の接触としてカウントされる（残り2回で返球する）。
- ・プレー中、ボールがネットに触れた場合は、もう1回ヒットすることが可能になる（合計4回で返球することができる）。

以上のように6人制とは異なるルールを有することから、9人制はより専門性の高い技術が発達してきた。また、バレーボールは高身長者が有利なスポーツであるが、9人制は6人制と比較して高身長者が絶対有利ではなく、適材適所での活躍の場があり、勝敗要因がチーム力や戦術によるところが大きい点も特徴の一つである。こうした技術・ルールの特徴が、オリンピックの正式種目として6人制が世界のスタンダードになった後も、すべてのチームが6人制に移行せず、9人制は特に企業スポーツを中心に独自の発展をしてきた理由と

考えられる。

9人制においては、日本独自の競技であることから、6人制に比べて大きなルール改正が少ない。しかし過去、戦術が大きく変わり、チーム強化の方向性までも変わるルール改正があった。1995（平成7）年のシーズンから、ブロックの後に続けてボールを触れることが可能となった。6人制では可能なブロック後の連続接触が、9人制ではダブルコンタクトの反則であったことから、高度な技術習得を必要とし、その面でも低身長者に有利なルールであったと言える。この、ルール改正によりそれまで通用した技術・戦術が使えなくなったり、前衛選手の大型化を助長したことが考えられるが、ダイナミックな攻撃とそれをつなぐラリーの応酬は見応



2010年、9人制の開催が最後となった千葉国体にて

えのあるものへと変化したと考えられる。

近年、9人制のルールを6人制に近づけようとする意見もあるが、9人制の選手（主にセッターとレシーバー）がV・プレミアリーグに移籍したり、6人制の日本代表候補になるなど、高校、大学卒業時には目に止まらなかった選手が9人制で技術を磨き、6人制から注目される選手になることは9人制の存在価値の一つでもあり、その根幹であるルールは守っていきたいと考える。

最後に、ここまで競技性の高い面を説明してきたが、9人制は人数が多い分、一人当たりの運動量が少なく、高齢になっても楽しむことのできる生涯スポーツとしての一面も持ち合わせていることを付け加えておく。



9人制の日本一を争う全日本総合選手権大会が毎年行われている

コラム

9人制バレーボールは「速い」「強い」「巧い」

静岡産業大学 塚本博之

9人制ではサーブの試技が2回あるため、1stサーブは全力で打つことができる。しかも6人制よりもネットが低く、男子においてはコートも広い。必然的に6人制よりもスピードの「速い」サーブを打つことが可能である。一方、レセプションは速くて力強いサーブを受けるため、ボールとの接触面積が広いオーバーハンドが主流となる。ここにオーバーハンドの「強さ」が要求されてくる。また、ブロックのワンタッチは1回の接触とカウントされるため、次のディグを正確にセットしなくてはならない。これには「巧さ」が要求される。9人制はポジションに制限がないため、トップレベルのチームにはこうした「強さ」と「巧さ」を兼ね備えたレセプション&ディグ専門の選手が配置されている。6人制のバックゾーンにリベロが3人いると考えれば、そのディフェンス力は容易に想像できるであろう。また、「巧さ」はネットプレーにも象徴される。ボールがネットに接触すれば合計4回ボールをヒットすることが可能なため、これは様々な場面で応用できる。まず、レセプションが乱れてネット付近に返球されたとき、セッターは自らネット下段にボールをぶつけ、そこから跳ね返るボールをコントロールしてセットするのである。熟練したセッターはボールをネットにぶつけた後、クイックや時間差攻撃を

繰り出すなど、6人制では思いもよらない想像力に溢れたプレイが可能となる。さらに、9人制ではチャンスボールで返球せざるを得ないラストボールであってもスパイクで打ち返すことがある。たとえ失敗してネットに当たっても、その跳ね返りを返球すればよいのである。したがって、セットがネットから離れていようがお構いなしで「強く」「速い」スパイクを打ち込もうと試みる。

ブロックに関しては、5人ないしは6人のバンチリードシステムと考えてよいだろう。ほとんどのスパイクに、複数枚のブロックがつくのは常である。また、オーバーネットが許容されないため、同じ高さの壁を作ることが重要であり、6人制の囲い込むようなキルブロックは存在しない。したがって低身長スパイカーであっても「巧み」にブロックを利用したスパイクを打つことが可能となる。

このように9人制は、速さや力強さの中にも巧みさがミックスされ、目を瞬く暇もないほどのラリーの応酬が魅力といえる。しかし一方で、プレイの専門性が高いわりには一人当たりの運動量が少ないため、生涯スポーツとしての一面も持ち合わせている。男性では40歳以上の「日本スポーツマスターズ」、50歳以上と60歳以上のカテゴリーがある「ヴィンテージ8's交流大会（8人制）」、女性では35歳以上の「日本スポーツマスターズ」、50歳以上の「いそじ大会」、60歳以上の「ことぶき大会」など、何歳になってもバレーボールを楽しむことができる。実はこれが9人制の最大の魅力ではないだろうか。